
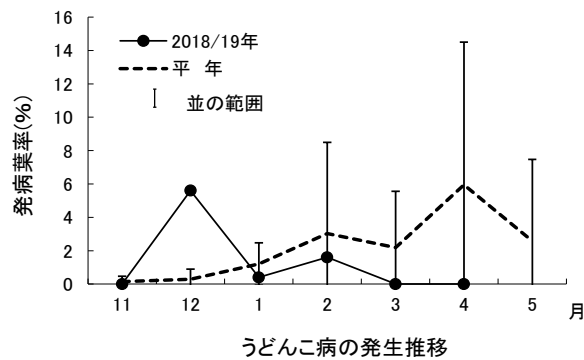


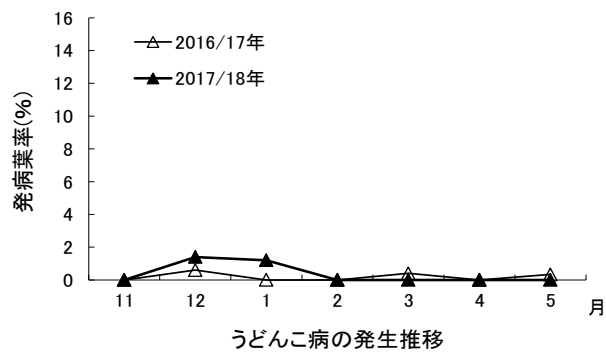
作物	とうがん	地域	宮古群島	
病害虫名	① うどんこ病			
予報	5 月の発生量 (平年比)			並
	4 月からの増減傾向			→
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
	その他 (気象要因など)	今後 1 か月の気温が平年並の見込み		

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



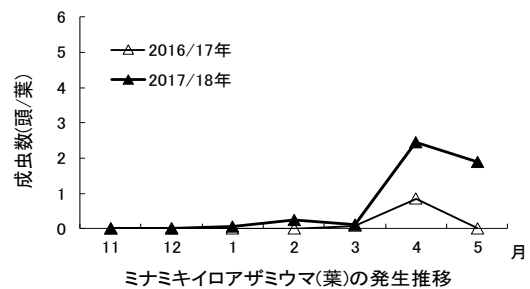
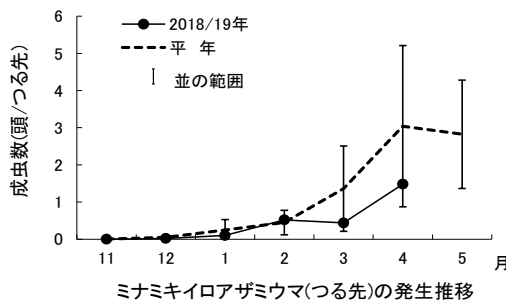
防除のポイント

- ・ 発生源となる不用な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・ 除去した葉はほ場内に放置せず、ポリ袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- ・ 薬剤防除は予防散布に重点をおく。

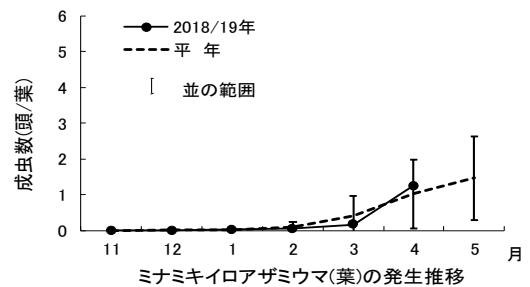
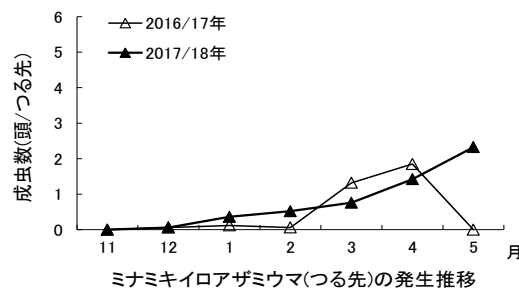
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年のつる先の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



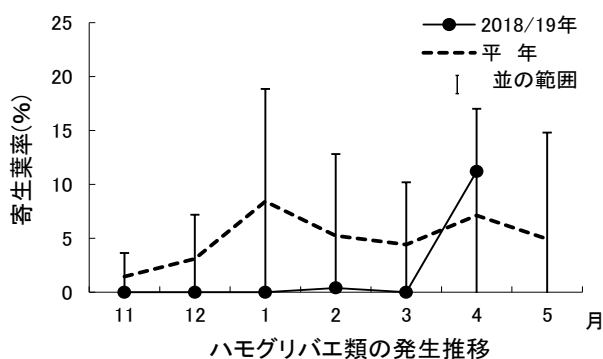
防除のポイント

- ・ ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、つる先を観察し早期防除に努める。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

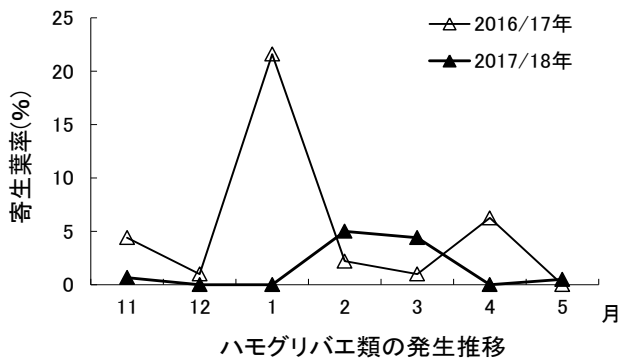
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハモグリバエ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




防除のポイント

- ・施設内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- ・幼虫期間が比較的に短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。
- ・老葉や摘葉後の残さは、本種の発生源となるので、ポリ袋に入れるなどして密閉し、施設外に持ち出し処分する。

幼虫の死骸

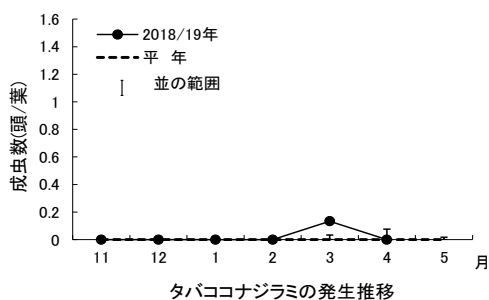
(農薬などで死亡すると黒色に変色)



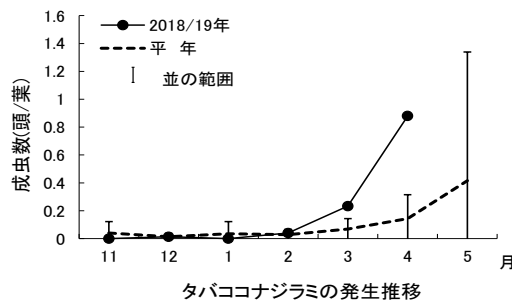
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

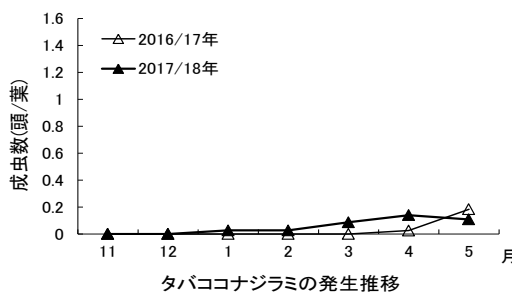
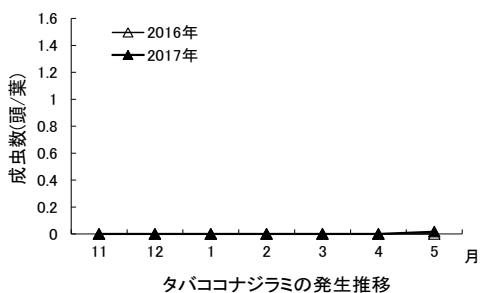
今期と平年の推移
(中央値)



(平均値)




過去2年間の推移



・一部の定点調査ほ場で多発生していた。

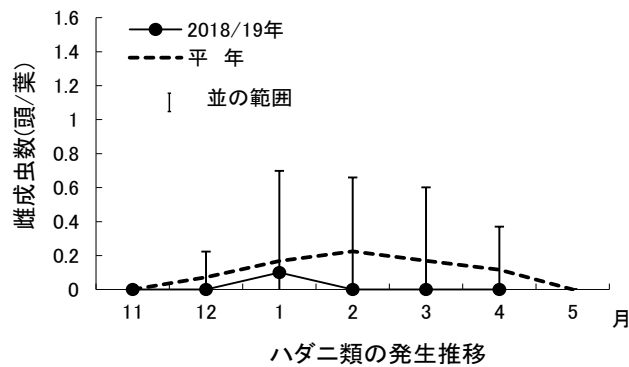
防除のポイント

- ・ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

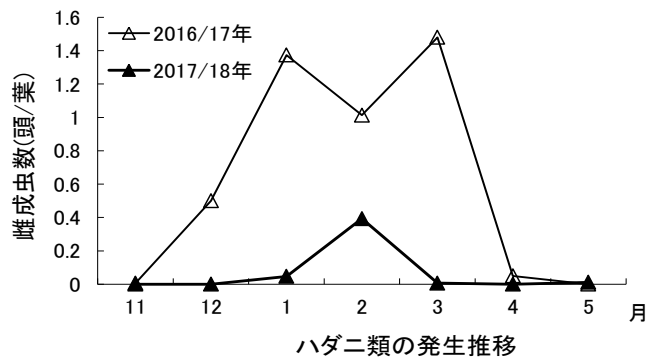
作物	とうがん	地域	宮古群島
病害虫名	⑤ ハダニ類		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

- ・ 気門封鎖型薬剤の散布を主体とした防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。